

## ○ 信濃美術館の経緯・現状

- 昭和41年10月 開館(49年経過)  
昭和44年 6月 長野県に移管  
平成 2年 4月 東山魁夷館 開館
- 管理運営:長野県文化振興事業団  
※ H18.4月～指定管理  
館長以下 15名体制  
※ うち学芸員7名(正規2名)
- 収蔵品数 5,000点(うち本館4,032点)
- 入館者数 13万7千人(H26)  
※ ピークはH2年の45万8千人

## ○ 主な課題

- 善光寺に隣接する有利な立地条件を、集客につなげられていない。  
※ 善光寺の来訪者:年間約600万人  
美術館の入館者:年間約 17万人(過去5年)  
※ H27御開帳に707万人が来訪  
この期間の入館者は3万3千人
- 老朽化が著しく、狭隘でバリアフリー化も遅れているため、幅広い年代層に美術に親しむ機会を十分に提供できていない。
- 全国一の数を誇る県内 105館の美術館の中核を担える体制になく、信州の多様な文化芸術の魅力を十分に発信できていない。
- 学芸員が不足しており、他の美術館の支援や調査研究等を十分に行い得ない。  
※ H10以降開設の延床1万㎡以上の県立美術館の平均11人(正規9人)
- 展示室が狭く、大規模企画展の開催が困難。また、老朽化等により、貴重な美術品の管理に支障を来すおそれがある。
- 信州ゆかりの貴重な収蔵作品の展示の機会を十分に確保できていない。

## ○ コンセプト

### ランドスケープ・ミュージアム

～ 国宝善光寺や東山魁夷館、信州の自然・山並みと調和し、一体化した美術館 ～

- 優れた芸術作品を国宝・善光寺、庭園、信州の自然美とともに楽しむ機会を提供
- 誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを提供

### 信州の美術教育を支援

- 子どもからお年寄りまで、美術に親しみ、楽しむ機会を提供
- 小中高校生や大学生に美術を学ぶ機会を提供
- 信州ゆかりの若手芸術家や地域の芸術活動を支援

### 信州と世界の交流ステージ

～国内外の人々が集い、信州の魅力を発信する文化・観光の一大拠点～

### 信州の地域文化の多様性を活かす

- 信州の多様な地域文化をネットワーク化して紹介
- 県内の美術館ネットワークの中核を担い、信濃美術館収蔵品の巡回展など連携・協働の取組を推進
- 県内美術館の紹介など文化芸術に関する情報を収集・発信。調査・研究など県内の学芸員の活動を支援

### 世界水準の作品展示と信州芸術の紹介

- 国宝・重文級など最高水準の芸術作品の鑑賞機会の提供。全国規模の巡回展の誘致・開催
- 郷土の芸術家の作品展示と若手芸術家の育成支援
- 将来性ある芸術家の作品など「進化・成長する美術館」をめざしての作品収集

## ○ 施設整備の考え方

### ◇ 立地条件を活かした整備

- ・ 周辺の山並みや自然美と調和するランドスケープ・ミュージアム
- ・ 城山公園と善光寺東庭園が連続的に一つの庭園となるように整備
- ・ 善光寺東庭園から美術館までの移動しやすい回遊路の設置

### ◇ 既存施設との関係

- ・ 信濃美術館は、管理棟・展示棟ともに全面改築
- ・ 東山魁夷館と新美術館は、機能性や利便性の面から接続

### ◇ 施設の配置

- ・ 城山公園内に配置
- ・ 施設配置や公園との一体化は、建築家と調整

### ◇ 施設の規模

- ・ コンセプトを実現しうる施設として11,000～12,000㎡程度で整備

### ◇ 設計者の選定

- ・ プロポーザルを基本とし、他県の事例の調査研究を進め、それぞれの選定方法のメリット・デメリットを整理し、さらに検討